

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒101-8441
 住 所 東京都千代田区神田錦町1-25
 氏 名 日清ペットフード株式会社
 代表取締役社長 小池 祐司 印
 (代理人) 取締役鶴見工場長 鈴木 信孝
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日清ペットフード株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区大川町3-1		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	10	飲料・たばこ・飼料製造業
主たる事業 の内容	ペットフードの製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		2,553 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	鶴見工場
		所在地	川崎市川崎区大川町3-1
	電話番号		044-366-5331
	FAX番号		044-344-2372
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度 平成26年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の環境基本方針については、ホームページにて公表しています。 Http://www.nisshin-pet.co.jp/company/environment.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 5,087 t-CO ₂ (調) 5,080 t-CO ₂	(実) 5,241 t-CO ₂ (調) 5,235 t-CO ₂	(実) 4,823 t-CO ₂ (調) 4,817 t-CO ₂	(実) t-CO ₂ (調) t-CO ₂	(実) 4,934 t-CO ₂ (調) t-CO ₂
削減率		(実) -3.0 % (調) -3.1 %	(実) 5.2 % (調) 5.2 %	(実) % (調) %	(実) 3.0 % (調) %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	単位				
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値					
削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	生産量の増加（基準年度比+1.8%）、ペットの小型化・高齢化に伴う商品の小ロット多品種化や高加工度のプレミアムフードなどの市場要求に対する、弊社鶴見工場の商品数増と製造切替回数増加により、エネルギー使用量は増加した。これに対し、生産効率改善の取り組み実施、高効率空調機への更新、コンプレッサーの運転手順見直しなど、温室効果ガスの排出抑制策を行ったが、結果としてCO ₂ 排出量は基準年度比3%増加した。
第2年度	ペットの小型化・高齢化に伴う商品の小ロット多品種化や高加工度のプレミアムフード増加などの市場要求に対応するため、製造切替回数が増加してエネルギー使用量増加の要因もあったが、生産量の減少（基準年度比-5.8%）と、生産効率改善の取り組み実施、高効率空調機への更新、コンプレッサーの運転手順見直しなどにより温室効果ガスの排出が抑制され、CO ₂ 排出量は基準年度比5.2%減少した。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制 ○小集団活動 ○省エネタイプの設備更新 ○設備高効率化改修 ○照明設備の運用、更新
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備：当事業場内の日清製粉(株)、日清サイロ(株)と「環境・CO2リーダー会」を共同開催し、平成25年度も省エネ活動の啓蒙に取り組んだ。 ○省エネタイプの設備更新：高効率空調機へ更新(3台) ○設備高効率化改修：常時2台稼働させていたコンプレッサーを必要時以外は1台運転とする手順とした。ボイラードレンポンプ改修時に高効率型を採用した。 ○生産効率の改善：製造切替時の手順を見直し、発生する半製品を削減して生産効率を改善した。
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備：当事業場内の日清製粉(株)、日清サイロ(株)と「環境・CO2リーダー会」を共同開催し、平成26年度も省エネ活動の啓蒙に取り組んだ。 ○省エネタイプの設備更新：高効率空調機へ更新(1台) ○設備高効率化改修：生産ライン休転日に稼働させていた大型コンプレッサーを必要時以外は休転し、可能な限り移動式ベビコンで対応する手順とした。 ○生産効率の改善：製造切替時の手順見直しを継続し半製品を削減した。ライン毎に蒸気圧弁を設置し製品水分管理手順を見直し、蒸気の無駄使いを改善した。
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ol style="list-style-type: none">1. 廃棄物の減量化・分別化の推進を図る2. 取得済みのISO14001の活動の一環として、環境に関する教育を行なう。3. グリーン購入の推進を行なう4. 運送業者等に対するエコドライブ実施の協力要請
第1年度	<ol style="list-style-type: none">1. 廃棄物の削減に取り組み、産業廃棄物を削減した。2. 全従業員を対象にした環境研修を開催し、環境保全目標の周知、省エネ取り組みについて教育した。
第2年度	<ol style="list-style-type: none">1. 廃棄物の削減に取り組み、産業廃棄物を大幅に削減した。2. 全従業員を対象にした環境研修を開催し、環境保全目標と現在の達成状況を説明し、取り組みを推進するよう啓発した。
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	5,225	t-CO ₂
(調)	5,170	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
鶴見工場	川崎区大川町3-1	1061	ペットフード製造	5,225 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--